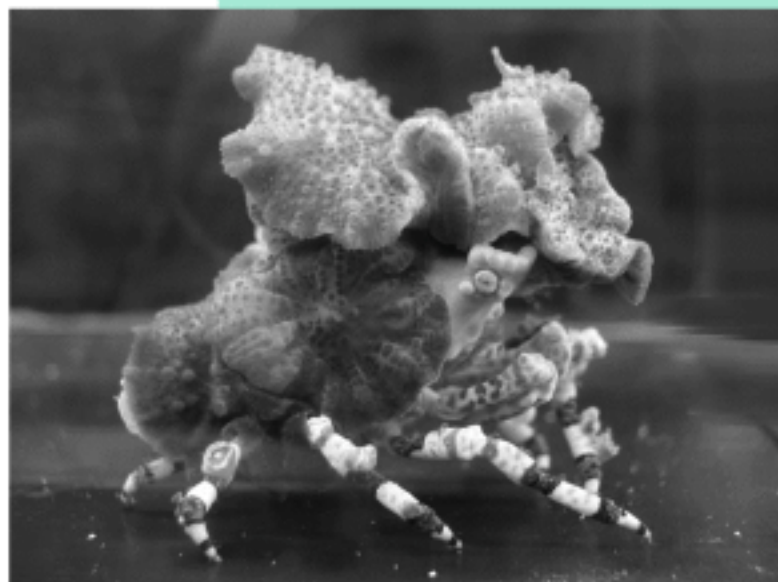


ミミズクガニ *Cyclocoeloma tuberculata* Miers, 1880



ミミズクガニは、クモガニ科に属する。クモガニ科には愛称の名人が多く、特定の宿主をもつものは、その宿主の色にそっくりの装をしている。宿主をもたないもので、体表に海藻やカイメン、海綿のゴミなど様々なものを付けかみフラージュするものがたくさんいる。ミミズクガニもその一つで、甲や歩脚の表面にイソギンチャクモドキやスナギンチャクを地肌が見えないくらいに付着させている。これらの付着動物は基質にしっかり付いているので、移植するのは人間でも難しい。ミミズクガニはいったいどうやって自分の体に付けるのだろうか。脱皮直後のミミズクガニを一度だけ見たことがあるが、ちゃんとイソギンチャクモドキなどを付けていたから、ミミズクガニは、脱皮のたびにそれらを上手に引っ越しさせているはずである。きっと進化の中で獲得した特別なテクニクがあるのだろう。

撮影者：谷口洋基
 撮影者：岩尾研二
 撮影日：2003年3月28日
 撮影場所：阿嘉港

編集後記

編集 岩尾 研二 (研究員)

阿嘉島臨海研究所には、毎年たくさんの人々が訪れます。もちろん一番多いのは研究者ですが、その他にも行政関係者、学校関係者など様々です。この一年間の施設利用者を取りまとめている、企業に属する人達がずいぶん増えてきたのに気がきました。「サンゴ礁はお金になる」と考えられ始めたのでしょうか。それがサンゴ礁の保全や修復に関わることであれば大歓迎ですが、ともすれば逆の影響を及ぼしかねないような動きも耳にします。人々がサンゴ礁からたくさんのお金を受けているのは言うまでもないことですし、その中にはお金に関わることもたくさんありますから、どんどんお金を儲ければ良いと思うのですが、“今”だけではなく“将来”もずっと利益を得続けられるような賢い方法を考えなければいけないと思います。まさに今こそ、真剣にそれを考えなければ取り返しのつかないことになる時期ではないでしょうか。



発行人
 ESTABLISHMENT OF TROPICAL MARINE ECOLOGICAL RESEARCH

財団法人熱帯海洋生態研究振興財団

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ614号 TEL. & FAX. 03-3490-7266

AKAJIMA MARINE SCIENCE LABORATORY

阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡笠間味村字阿高179 TEL. 098-987-2304 FAX. 098-987-2875

E-mail: amsl@ryukyu.ne.jp Homepage URL: <http://www.amsl.or.jp>